

## 第13回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時：2006年3月10日（金）10時～12時20分
2. 場所：財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 委員の現在数：7名
4. 出席者と人数：永田委員長、酒井委員、辰巳委員、細田委員、  
松田委員、米澤委員、渡辺委員  
以上 7名出席  
その他（財）自動車リサイクル促進センター事務局、  
経済産業省・環境省担当官が出席
5. 議題：①平成18年度事業計画（案）、平成18年度収支予算書（案）  
及び平成18年度特定再資源化預託金等の出えんについて  
②再資源化預託金等の運用における環境配慮企業の位置付け  
及び平成18年度再資源化預託金等運用計画（案）について  
③平成17年度第3四半期の運用の評価について  
④監査について

### 6. 議事録

#### （1）議題①について

「平成18年度資金管理業務に関する事業計画書（案）」「平成18年度再資源化預託金等特別会計収支予算書（案）」「平成18年度再資源化預託金等特別会計収支予算書（案）の説明書」「平成18年度の特定再資源化預託金等の出えんについて」「平成18年度承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計収支予算書（案）」「平成18年度承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計収支予算書（案）の説明書」「平成18年度の出えん業務運営費について」「情報管理センターの状況について」「平成18年度資金管理料金特別会計収支予算書（案）」「平成18年度資金管理料金特別会計収支予算書（案）の説明書」に関して資料3-1～資料3-10（含む添付資料、別紙、参考資料）を使用して事務局から説明。各委員から了解された。委員からは以下のような意見があった。

#### 主な質疑・意見

（注）◇は委員からの質問・意見 ◆は事務局からの回答

- ◇資料3-10添付1の共通費用按分比率は、決算時に変更されるのか。
- ◆当年度の実績で次年度の按分比率を決めるので、決算時に変更はしない。

- ◇資料3-3添付2において、平成18年度予算におけるASRリサイクル料金の平均単価が、平成17年度予算対比でアップしている要因として「平均単価が比較的高い新車時預託の比率が高まる」とあるが、どういう意味なのか。
- ◆平成17年4月～平成18年1月の実績を見ると、引取時預託、継続検査時等預託、新車時預託の順に平均単価が高くなっているため、この実績をベースに想定したということである。新車ほど車両重量が重いことがリサイクル料金の高い要因と考えられる。
- ◇平均単価欄の脚注として新車のリサイクル料金が比較的高くなる説明を記載してもらいたい。
- ◇輸出返還についてであるが、通関統計台数は如何ほどか。また、輸出返還台数の見通しが当初予測に比べて下方修正されているのは何故なのか。
- ◆平成17年1年間の通関統計台数は約94万台と聞いている。因みに平成17年7月～12月の輸出抹消台数は約70万台である。また、輸出返還台数を下方修正したのは、輸出抹消データを受け取るまでにタイムラグがあることに加え、輸出抹消データの車両における預託率が想定より低いためである。
- ◇資料3-3添付1の台数前提について、次回作成時には実績を併記してもらいたい。
- ◇収支予算書だけを見てもわかりづらいので、事業活動収支等の概略図を作成してもらいたい。
- ◇資料3-7に関して、昨年10月から離島対策支援事業を行ってきて、市町村での問題点等のヒアリング結果をまとめてもらいたい。
- ◆次回の諮問委員会で報告する。
- ◇資金管理料金特別会計収支予算書の脚注2で、前年度予算額は前年度の収支予算書の科目を当年度予算額の科目に対応させて組み替えて表示、とあるが、金額に変更はないのか。
- ◇1区分を3区分に組み直したただけなので、金額の変更はない。

(2) 議題②について

「再資源化預託金等の運用における環境配慮企業の位置づけについて」「平成18年度再資源化預託金等運用計画(案)」に関して、資料4-1～資料4-2(含む別紙、参考資料)を使用して事務局から説明。各委員から了解された。委員からは以下のような意見があった。

- ◇資料４－１において、当センター自身が他企業の環境問題への取組姿勢を評価することは不可能である、と考える必要はない。
- ◇社債購入対象企業の環境問題への取組を評価することは非常に大事なので、是非取り組んでもらいたい。
- ◇社会的責任投資株価指数算出機関が存在することは承知しているが、評価の指標は環境問題だけではない。雇用、人権、ガバナンス、社会貢献等幅広い評価指標を採用しており、またサンプルが少ないので、これをもって価値判断をしてもよいかどうか、慎重に検討する必要がある。
- ◇２つの機関を使うとした場合に、その評価の妥当性があるのかどうかという問題もある。
- ◆特定の業種は対象外とするなどの価値判断が入っている指標もある。
- ◇環境配慮企業に投資をする姿勢を示すことはよいが、現在使い得る適切な指標に乏しいことも認識しなければならない。
- ◇現段階は、環境配慮企業を総合的に判断し社債の銘柄選択に取り組んでいくことを検討している、ということを発信していくということではないか。
- ◇証券会社に対しても、当方の取り組みを理解してもらえよう努めてもらいたい。

### (3) 議題③について

「平成１７年度第３四半期の再資源化預託金等の運用成果及び資産構成の評価」「証券会社別発注の検証について」に関して、資料５－１～資料５－２を使用して事務局から説明。各委員から了解された。

### (4) 議題④について

「資金管理業務諮問委員会の要望にもとづく監査実施について」「内部監査の結果について」「内部監査結果に基づく監査室の提言事項及びそれに対する資金管理法の対応」「平成１８年度監査計画書（案）」に関して、資料６－１～資料６－４を使用して事務局から説明。各委員から了解された。委員からは以下のような意見があった。

- ◇資料６－１で、共通費用按分率について特別監査として対応する、と

あるが、通常監査の一環でよいのではないか。

- ◆通常監査よりも深く踏み込んだ監査、すなわち特別監査をしてもらいたいと考えている。
- ◇資料 6-3 の自治体の引取車両に関する預託金等未収入金は、確実なフォローをお願いしたい。
- ◇資料 6-2 は監査室が作成し、その旨を明示した上で説明するべきである。

以上